令和６年度 外国語教育

The English Edu. Newsletter VOL.2

幼小中教育課
・英語授業改善プロジェクト学校訪問

滋賀県教育委員会事務局高校教育課・幼小中教育課　令和６年９月

令和6年度新規事業「英語授業改善プロジェクト学校訪問」が6月からスタートしました。本事業は、県内の全ての市町立中学校および義務教育学校[後期課程]を3年かけて、外国語担当指導主事が訪問させていただくものです。公開授業および授業研究会を通して、学習者用デジタル教科書の効果的な活用や小・中学校の円滑な学びの接続等について共に考え、各校における継続的な授業改善を目指しています。

令和６年～令和８年

英語授業改善プロジェクト学校訪問

本年度は３２校を訪問させていただいています。御準備等ありがとうございます。

1学期に訪問を終えた学校からは、「授業改善について、英語を担当する教員が皆で考えることができた」、「学習指導要領に沿った授業実践をどのように行うかについて理解できた」等の前向きな声をいただいています。本事業では、校内の英語を担当する教員だけでなく、同じ市町の小・中学校教員の方々にも出席いただく場合があり、授業改善に関わる学びが広がっています。今回は、授業研究会で出された御質問について共有します。

なぜ言語活動が必要なのですか？

言語活動とは、習得した知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力を育成するために、生徒が取り組む活動です。山田前教科調査官は、「言語活動とは、『互いの考えや気持ちを伝え合う活動』と説明されることがありますが、アウトプットする活動だけが言語活動ではありません。『聞くこと』『読むこと』に関しても、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、聞き取ったり読み取ったりして相手の伝えたいことを捉える活動については言語活動と言えます。」と、伝えておられます。

中学校外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする**コミュニケーションを図る資質・能力を育成する**」ことです。

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためには、文法の意味を理解したり、単語や表現を覚えたりするだけでは不十分です。学んだ言語材料を活用して、実際に英語でコミュニケーションを行うことで、英語によるコミュニケーションを図る資質・能力が身に付いていきます。

私たちは、普段、日本語でコミュニケーションを行っています。その際も、様々な知識や技能を活用して、思考力・判断力・表現力を働かせながら、相手の思いを聞き取り（読み取り）、自分の思いを伝えています。授業においては、英語で言語活動を行うことを通して、英語でコミュニケーションを図る力を生徒が身に付けていきます。

まとめると、言語活動は 外国語科の目標である「コミュニケーションを図る資質・能力」を生徒が身に付けるために必要だと言えます。

日野中学校での授業研究会の様子（授業者 A 教諭）
・近隣町の小・中学校教員も参加され、公開授業や普段の授業について活発な協議が行われました。

単元計画を立てないといけませんか？

中学校学習指導要領「外国語」では、**「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること」**と規定されています。

１時間で完結する授業ではなく、単元（およそ７～10時間程度）を通して、スパイラルに繰り返し学習していくことで、生徒は、学んだ文法事項や言語材料を活用できるようになります。単元の中で、既習の言語材料を使った言語活動を何度も行うことで、単元終末には、これまで使った言語材料等を基にした言語活動に自分たちの力で取り組めるようになります。さらに、単元の初めに、単元の目標と単元計画を生徒と共有することで、生徒は学習の見通しをもつことができ、より主体的に学習に取り組めるようになります。このことから、単元計画を立てることが必要だと考えます。

★単元構想の手順（例）
①年間指導計画および「CAN－DOリスト」に照らし、単元の目標（および終末の言語活動）を作成する。
②単元の評価規準を作成する。
③生徒が単元の目標を達成するためにはどのような指導が必要であるかを考え、単元計画を立てる。

公開授業に向けた指導案検討についてのお願い

本事業の公開授業に関わって、英語を担当する教員が校内にお二人以上おられる場合、授業者のみではなく、皆で集まっていただき、指導案検討をしていただくことが望ましいと考えております。

このことが、継続的な授業改善を行っていただく第一歩になると考えているからです。各先生方の考えや意図が反映された授業を参観されることで、それぞれの先生が、当日の授業を自分事としてとらえることができます。

公開授業および授業研究会を、校内の英語指導の強みと課題を認識される機会にし、公開授業後の継続的な共通実践につなげていっていただきたいと考えております。

【参考】 令和5年度　The English Edu. Newsletter VOL.6より

英語授業改善プロジェクト学校訪問

目的

・外国語科の指導において、円滑な小中接続を可能にすること。
・学習者用デジタル教科書を効果的に活用する方法を共有すること。

校内の英語を担当する教員が、めざす授業像を共有し、よりよい指導をしていけるよう、共通理解・共通実践を進めていくための第一歩になることを願っています。

対象

・訪問校　公立中学校および義務教育学校[後期課程]全95校(県立は希望制)
※令和6年度～令和8年度の3年間で、全中学校を訪問します。
・対　象　各校の英語を担当する全教員

講師の方も御参加ください㊗
生徒の英語力を伸ばす手立てを一緒に考えていきましょう！

流れ

指導案の検討

・学習指導案(略案)作成
・訪問前に指導案を作成し、市町教育委員会を通して、提出していただきます。

校内の教科部会で、指導案検討ができるといいですね。

日々の授業を、ブラッシュアップするために活用ください。
★文部科学省の参考動画集
★滋賀県モデル「CAN－DOリスト」(令和4年度改訂版)」
☆中学校学習指導要領
☆指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料

訪問　公開授業および授業研究会

・公開授業(英語)
・協議　※小規模校については、授業研究会を懇談の形式にすることもあります。
・指導助言

英語の指導について、疑問に思っていることや、困っていること等も共有し、一つの方向性が見いだせるような研究会になることを目指しています！協議の時間がたっぷりとれるといいですね。

生徒の変容が楽しみですね。

市町内の中学校外国語主任会や英語部会と兼ねるなど、みんなで学ぶ会にできるとよいですね。
近隣の先生方と、つながっていきましょう！

共通実践と継続

・事後アンケート
※英語担当主任に、しがネットで回答していただきます。

㊗めざす生徒の姿を思い描いて、引き続き、授業改善を行っていきましょう。

“Rome was not built in a day.” By John Heywood